

(1) 農林業・農山村の将来像について

想定課題

国会等の移転に伴って、那須地域の農林業・農山村に様々な影響があると思われるが、農林業・農山村の将来像はどのように考えるべきか。

対応方向

那須地域の農林業・農山村の将来像を考えるにあたっては、地域資源を生かしながら、新たな環境の下での農林業の展開や新都市をイメージしたランドデザインを踏まえ、都市と農山村の新しい地域形成にも配慮することが必要です。

新都市は、日本の新しい地域づくり・まちづくりのモデルともなるものであることから、新都市づくりには「都市」と、多様な生産が展開される「農林業・農山村」、野生生物が生息できる良好な「自然環境」が、ともに融合・共生していくという視点が必要です。

このような考え方に立って、新しい農林業・農山村を振興するためには、

- ・新たな条件を生かした先進的な農林業の展開
- ・環境に調和した農林業の促進
- ・都市と農山村の交流・共存システムの構築
- ・新都市と調和した農山村アメニティの形成等

を考慮して、地域全体の調和や質の向上を図ることが重要であると考えます。

農山村アメニティ

アメニティは「快適な環境」と訳されるが、一般的には「住み心地の良さ」と言い換えられ、安全性、健康性、利便性、快適性の4要素がすべて整って得られるものである。

これらから、農山村アメニティとは緑豊かな自然や歴史・風土を基盤にして、農山村の特性を生かしつつ、「快適環境」が確保されている状態をいう。

農林業・農山村のあり方と将来像

